

林文部科学大臣 基調演説

(はじめに)

- 中国の雒樹剛(ルオ・シュガン)文化部長, 韓国之都鍾煥(ト・ジョンファン)文化体育観光部長官, 中国・韓国の皆様, 1200年以上前から日中韓三国民の交流が行われてきた我が国の古都・京都によろこお越しくございました。本日, 皆様をお迎えして, 第9回日中韓文化大臣会合を開催できますことを, 大変うれしく思います。
- 2007年に始まったこの会合は, 2011年の第3回奈良会合以降, 途絶えることなく開催されています。この間, 日中韓3国の間には難しい問題もありました。「文化の分野での交流を維持・深化させ, 相互理解を深めよう」という三国の強い意志が, この大臣会合を継続させてきました。
- この大臣会合は, 東アジア文化都市を初めとする各種の交流事業を生み出してきました。三巡目を終える今回の会合では, これらの事業を振り返るとともに, 今後の展望を開きたいと考えています。両大臣の御協力をよろしく願います。

(東アジア文化都市事業の充実)

- まず、東アジア文化都市事業です。三大臣会合の最大の成果である本事業は、これまで4年の間に日中韓の12都市を選定してきました。選定された都市では、規模の大小を問わず、三国の交流の要素を盛り込んだ多様な文化イベントが行われ、我が国の文化都市が行った意識調査では中国、韓国への関心が高まった、という結果が示されています。今年の我が国の選定都市である京都市においては、代表的文化財である二条城において、コア・イベントが開始されたところです。こちらには、本日午後、両大臣を御案内差し上げます。
- 来年の東アジア文化都市についてです。3か国の了解のもと、中国のハルビン市、韓国の釜山広域市、日本の金沢市を選定したいと考えます。金沢市は、漆器、金箔工芸等、多彩な伝統工芸が根付くと同時に、21世紀美術館に代表されるように現代アートの我が国での拠点ともなっている、伝統と現代が融合した文化都市です。若手工芸家らを中国、韓国に派遣し海外研修を行うなど両国との交流を盛んに行っています。2018年の日中韓交流の核の一つとして、大きな役割を果たしてくれることを確信しています。

(東アジア文化都市サミットの開催)

- この東アジア文化都市事業ですが、それを経験した都市が12都市になることから、昨年、この会合において我が国よりサミットの開催を提案いたしました。本日午後に行われるサミットには、日中韓併せて10都市が参画すると聞いています。大変うれしく思っており、両大臣の御協力に感謝を申し上げます。

(東アジア文化都市事業の更なる発展：検討会議)

- 昨年のこの会議では、東アジア文化都市のネットワークを強化してはどうか、という方向で一致しました。その後、これまでに、ロゴマークの策定やウェブサイトの立ち上げ、アーカイブの構築等が議論されたと聞いています。今後、これらの具体化について検討を進めるに当たって、各都市の主体性のもと、欧州文化首都やASEAN文化都市、ユネスコ創造都市の経験なども踏まえつつ、多様な関係者の知見を活用することが必要と考えます。私からの提案があります。本大臣会合のもとに、都市代表、政府代表、そして有識者によって構成される会議体を設置して検討を進め、来年、中国で行われる予定のこの会合で報告を行わせてはいかがでしょうか。両大臣の御意見を伺いたいと思います。

(東アジア文化都市事業の更なる発展：選定時期前倒し)

- もう一点、東アジア文化都市事業の充実に向けた提案をさせていただきます。現在のスケジュールでは、8月に都市を選定した後、翌年1月には各都市が事業を開始することになっています。我が国の選定都市からは、もう少し早く選定してもらい、準備期間を長く取ることができれば、更に充実した交流を行うことができる、という声があがっています。そこで、東アジア文化都市について、事業開始の1年半前には都市を選定することを提案いたします。

(日中韓三国間の芸術家・青少年交流の促進)

- 日中韓三国間の芸術家・青少年交流は、多様な主体が担うようになってきました。具体例を挙げると、日中韓芸術祭、日中韓文化芸術教育フォーラムといった国や芸術系大学が主導するもの、3か国の国立博物館などの文化施設が主導するもの、更には BeSeTo(ベセト, Beijing-Seuol-Tokyo)演劇祭のような民間団体が主導するものなどがあり、層の厚い交流が行われています。これらの取組を更に発展させることが重要です。この点に関し、日中韓学生アニメーション共同制作等事業の展開を歓迎します。2015年以来日本で開催されてきた同事業は、本年、初めて中国で開催されることになりました。若い世代の芸術家の交流や共同制作を三国政府が連携して、更に推進してまいりましょう。

(オリンピックの機会に合わせた共同文化プログラム)

- 平昌冬季オリンピック・パラリンピックの開催まで残すところ、5か月半となりました。韓国の文化体育観光部は、スポーツの分野での準備もさることながら、文化分野でも観光分野でも、フル回転されているのではないかと想像します。昨年この会合で、2018年の平昌、20年の東京、22年の北京と、三国で冬季・夏季のオリンピック・パラリンピックが連続開催される際、三国が共同で文化プログラムを実施することが合意されました。これを受け、今般、韓国からは、平昌冬季オリンピック・パラリンピックでの共同文化プログラムの提示がありました。まず、このプログラムが成功することを期待しています。そして、それを、東京、北京での事業の成功に向けたお手本にしたいと思います。

(文化施設間の交流の促進)

- 平昌冬季オリンピック・パラリンピックの共同文化プログラムには、三国の国立博物館が協力して実施する「日中韓「虎」美術展」があります。三国の国立博物館の間では、博物館長会議や共同企画展が継続的に開催されていますが、それがこのようなイベントの開催に結実していることをうれしく思います。この動きを、更にその他の文化施設にも広げていき、更なる交流の促進につなげていきたいと考えています。昨年この会議で提案したとおり、今年度から文化庁は中国、韓国との交流を行うアーティスト・イン・レジデンス事業への支援を強化しました。これによって中国、韓国のアーティストを受け入れる計画を立案するレジデンスが増えています。今後も、両大臣と連携して、同様の工夫を通じた文化施設間の交流促進を一層図っていきたいと思います。

(文化遺産の保護・継承の促進)

- 日中韓3か国は、豊富な有形・無形の文化財を有しており、その保護・継承は、3か国にとっての共通の課題です。今年、我が国において「日中韓文化遺産フォーラム」が開催されました。同フォーラムでは、「水中文化遺産の保護と活用」をテーマに、当該分野に関わる日中韓の専門家が一堂に会し、各国の取組の紹介、課題解決に向けた意見交換を行いました。その結果、三国間の協力関係やネットワーク構築が促進された、と聞いています。今後も、各国の成功事例と関連情報を共有し三国間の文化遺産の分野での協力を進めるとともに、世界各国における文化遺産の保護と継承に日中韓が連携して協力していくべきと考えます。その一環として、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護・継承に貢献するよう、ユネスコのアジア太平洋地域無形文化遺産カテゴリー2センターの活動を引き続き支援していくことは重要です。

(文化産業分野及び著作権保護への協力)

- 著作権の適切な保護と利用は、文化芸術と文化産業の振興の基盤です。これまで我が国は、中国、韓国の両国と定期的に二国間で政府協議を開催してきました。また、2010年以降、両国と著作権・著作隣接権分野で連携・協力のための覚書を締結し、政府間協議に加え、関係団体・民間企業を含めたセミナーやフォーラムを開催し、交流を重層的なものとしてきました。

デジタル化・ネットワーク化が高度に進んだ結果、海賊版による被害は国境を越えて拡大、深刻化しています。引き続き、この分野での取組を充実させることにより、正規版コンテンツの流通、海賊版対策のための協力と交流を強化していきたいと考えます。



(終わりに)

- 2015年のこの会合で採択された「青島行動プログラム」は今年で満期を迎えます。来年のこの会合では新たな三か年の行動計画が策定されることになるものと考えます。東アジア文化都市の充実方策を考える検討会議の報告、東アジア文化都市サミットからの宣言などを十分踏まえた計画となることを期待します。

日中韓3か国の文化交流を政府、都市、民間と、あらゆるレベルで一層推進し、これにより3か国の国民同士が相互理解を深めることこそが、未来志向の日中韓関係の構築に繋がります。それを進めるための具体的方策の一端を提案申し上げました。両大臣からの御賛同をお願いいたします。御静聴、ありがとうございました。